

新本店に移設された加藤孝造さんの陶壁「みのり」＝多治見市本町、東濃信用金庫本店



陶壁「みのり」引っ越し

東濃信金旧ビルから新本店へ

東濃信用金庫(多治見市本町)の新本店に、人間国宝の加藤孝造さん(86)「同市星ヶ台」が手掛けた陶壁「みのり」が移設され、24日、お披露目の式典が行われた。

(箕浦由美子)

加藤孝造さんが86年制作

陶壁は1986年に制作、旧本店1階ロビーに設置されていたが、隣接地に新ビルを建てたのに伴い、1カ月ほどかけて2階に移設していた。縦2・1メートル、横4・8メートルの大作で、トルコで見た麦畑の風景をモチーフに、志野釉(しやのゆう)を用いた。厚みが4センチほどもあるため、鉄骨で補強しているという作品の移設には難しさもあったが、無事再現できた。

加知康之理事長は「隣接するホールは『みのりホール』と名付けた。素晴らしい芸術作品が皆さまを力強く、温かく迎えてくれる」

とあいさつ。加藤さんは「黄金色の麦畑に太陽が昇って逆光に輝き、誠に美しい光景を作品にした」と説明。建て替えなどで他に自身が手掛けた陶壁3作品が既に失われたとして「渾身の力を込めて創ったものをこのように移転させていただけで、喜びに堪えません」と感謝を伝えた。

加藤さんは新本店完成に伴い、親父のある洋画家絹谷幸二氏の絵画「黒陶のバラ」を同金庫に寄贈。加藤さんが新本店のため陶房周辺の四季を描いた水彩画6点を、同金庫が購入した。



同時に購入された加藤孝造さんの絵＝同